

## 設置の趣旨・背景

- 近年、「環境」における安心・安全に国民の関心が集まり、都市や産業プラントなどの安心・安全を確保するための対策や、自然環境の維持・回復など地球規模の問題解決に関わる人材が求められている。
- その一方、超スマート社会の構築に向けて、「情報」が作り上げる環境における安心・安全を担保する情報セキュリティやIoT、AI、ビッグデータ解析などの発展に貢献する数理科学やデータサイエンスに精通した人材の育成が急務であるとされている。

## 組織の概要・養成する人材

- このようなニーズに応えるために、私たちを取り巻く環境を「人工環境」、「自然環境」、「情報環境」が不可分に重なり合ったものと捉え、それぞれに対応する専門的な知識と技能を備えた人材を育成するように、これまでの5専攻を3専攻に再編した。
- また、学府共通科目として「環境情報リテラシー科目」、「環境情報ジェネリックスキル科目」を置き、個々の専門分野にとどまらず、文理融合・異分野融合の視座を持ち、分野を越えた問題解決を図れる人材を養成するカリキュラムを実現した。

### ●人工環境専攻 M75名/D15名

ヒトとモノが作る環境の安心・安全を目指して、科学技術の社会実装における課題を発見し、解決に導ける人材を育成する。

### ●自然環境専攻 M33名/D6名

生態系や地球環境の保全のために、人間社会との関わりを視野に入れて問題解決を図れる人材を育成する。

### ●情報環境専攻 M65名/D12名

数理科学や情報学の手法によって蓄積されたデータを解析し、社会的価値を創造することのできる人材を育成する。

## 学内資源の再配分とガバナンス改革

- 第3期中期計画における全学的な組織改編
- 学長ビジョンに基づく、文理融合教育の実現
- 社会的ニーズに配慮した学生定員の適正化

